KIRAKI COLUMN

「子供たちの未来づくり」❼

― 財光寺小学校5年生の挑戦②

この半年間、財光寺小学校の5年生は、8人の多様な大人から仕事の話を聞いた。大人たちは、働く喜びと苦労を率直に語ってくれた。ある人は、仕事で使う道具を持ってきて見せ、触らせてくれた。ある人は、自分の経験や信条を少し難しい言葉で語った。ある人は、仕事に就いた経緯が、強い思いだけではなく偶然もあることを語ってくれた。子供たちは、8人の大人の話をどう受けとめたのだろうか。

「何のために学ぶのか」この難しいテーマを何とか子供たちに考えてもらおうと、先生方の工夫は想像を越えるような動きになった。

特別授業の時間だけでなく、普段の教科の時間にも何気ない問いかけが続けられた。学びのモチベーションはすぐ下がる。その下がった頃合いをみて、そこに「よのなか教室」の講師の話を入れていく。家での学習習慣をつくるためには保護者との連携が何よりも大事になる。そこで保護者向けの講演会を開いたり学級懇談が充実された。これらの取組の結果、この半年間で「子供とよく話す」という保護者の割合は25%から80%へと劇的に増えた。

そして極め付けは、話を聞くだけにしないで、子供たちに行動させることだった。先ず「何のために学ぶのか」を一人ずつまとめ、それを参観日に保護者の前で発表させる。さらに、それを踏まえて今度はチームで議論して、高校生の前で発表して高校生のコメントや話を聞くというものだ。

子供たちの発表には本当に感銘を受けた。「知識と経験は力なり」「人は自分が思い描いた以上にはなれない」といった大人たちの難しい言葉が実に自然に語られるのだ。そして高校生たちのアドバイスも素晴らしかった。子供たちが終始目を輝かせて聞いていたのが印象的だった。

学力は一朝一夕には向上しない。だからこそ、このような地道な取組こそが、確実な実を結ぶ方法に違いないという予感が、確信に変わった瞬間だった。

文／日向市キャリア教育支援センター長
水永　正憲

日向市キャリア教育支援センターホームページ　日向市キャリア　検索